

【4月19日～4月25日】

23～24日、ヴォローニン大統領のアゼルバイジャン訪問

A. 主な動き

1. 沿ドニエストル情勢

22日～25日の沿ドニエストル紛争解決に向けた各会談

・22日、リツカイ沿ドニエストル「外相」は、ネステルシュキン露外務省沿ドニエストル問題担当特使と会談。

・22日、ショヴァ再統合相は、駐モルドバ外交団に対して最近の沿ドニエストル紛争解決交渉の進捗状況等につきブリーフを行った。同ブリーフにおいて、ショヴァ再統合相は、モルドバ側としてはEUが沿ドニエストル高官に対する査証発給禁止を解除するよう求める旨発言。

・23日、ショヴァ再統合相は、ネステルシュキン露外務省沿ドニエストル問題担当特使と会談。

・23日、ルプ国会議長は、レムラー駐モルドバOSCE大使と会談。

・23日、ウクライナ・オデッサにおいてモルドバと沿ドニエストル間の鉄道運行再開に関する共同作業グループ会合が開催。(当館注:同鉄道運行は2006年のモルドバ・ウクライナ間の新通関措置開始後に停止された。)

・24日、モルドバ国会において、EUによる沿ドニエストル高官に対するEU査証発給禁止措置の継続を求める決議が与党共産党他多数の反対で否決された。

(当館注:11日に行われたヴォローニン大統領とスミルノフ「大統領」の会談において、ヴォローニン大統領は、モルドバはEUに対して沿ドニエストル高官への査証発給制限の

撤廃のためのイニシアチブをとる旨発言。またスミルノフ「大統領」は、沿ドニエストル側は全てのモルドバ高官に対するドニエストル側両岸の移動の制限を撤廃する旨発言。)

・25日、駐モルドバOSCE代表部ベンデル事務所において、ショヴァ再統合相とリツカイ「外相」が会談。

2. 外政

23～24日、ヴォローニン大統領のアゼルバイジャン訪問

・23日、ヴォローニン大統領とアリエフ・アゼルバイジャン大統領とのテタテ会談の後に、拡大会合が開催され、特にエネルギー分野での協力を含む経済・貿易協力につき協議が行われたほか、両大統領は両国の主権と領土一体性を基礎として平和的解決を行っていくことを確認した。成果文書として3つの政府間合意文書(燃料エネルギー分野協力、経済・税務犯罪に係る情報公開に関する協力、知的財産保護分野協力)の署名が行われた。また、ヴォローニン大統領はアリエフ大統領にモルドバ訪問の招待を行った。

・別途、ラシザデ首相、アサドフ国会議長、アブドゥラエフ石油団会長と会談したほか、アゼルバイジャンにおけるモルドバの文化の日開催に出席した。

B. その他の動き

4/22 (火)

・キリスト教民主人民党は、「1932～33年のウクライナの大飢饉」に関する決議を議会に提出。

4/25 (金)

・モルドバ国家統計委員会は、2007年の出生率は、2006年よりも上昇し、10.6%となった旨発表。

(了)

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシノウ」(モルドバ語読み)と標記しています。